



仲井宗基監督の講演を聞く生徒たち

光星高野球部・仲井監督

「努力すれば可能性無限大」

鯨中で教育講演会

市民 記者

八戸学院光星高野球部の仲井宗基監督

による教育講演会がこのほど、八戸市立鯨中で開かれた。巨人の坂本勇人選手や千葉ロッテマリーンズの田村龍弘選手らを輩出し、甲子園で複数回の準優勝を果たすなど青森県内の高校野球をリードしてきた同部。仲井監督は数々の経験を踏まえ、同中の1〜3年生約145人に向けて「可能性は無限大」というメッセージを送った。
(佐藤莉奈香)

仲井監督は約30年前に大卒で同部のコーチに就任した。指導者経験ゼロからのスタート。当時は部員十数人の小規模で、現在の140人超の大所帯からは想像し難い状況だった。ある時、チームが思うように勝てず、行き詰まったことがあった。

そんな時、前任の監督から「勝とうとして、自分をそんなに追い込まなくてもいい」といった内容の助言を受けた。寮生活やトレーニングについて選手に任せおののちに「自律心」が芽生え、チームとして成長し強くなったという。

当時はプロになった田村選手らが在籍。社会に通用する人間の育成を大切にす仲井監督にとって「自律」という言葉も成功のキーワード。目標は目的の通過点であり、目的がゴールである」と仲井監督。言い換えるなら、何のために野球をし（目標）、野球を通してどのような大人になりたいのか（目的）、ということだろう。

市民記者便り

○：八学光星野球部や仲井監督には、何度か取材させていただいています。選手たちは非常に礼儀正しいです。立ち止まり帽子を取ってあいさつするなど、チームとして教育が行き届いているといつも感じします。仲井監督は震災にも触れました。2011年3月、

沖繩キャンプに出ている、11日に八戸に戻ってから春の甲子園に出場する予定が、東日本震災の影響で戻れず、もう一度日々の生活に感謝しながら野球と向き合う」と当時の選手たちと共有したそうです。以来、3月11日以降に八戸をたつと決め、東北の思いを背負って野球と向き合っているという話もすてきでした。